

「立川 談四楼」



講演会

2014年3月2日(日)

開場 13:20 開演 14:00

大泉町文化むら 大ホール

群馬県邑楽郡大泉町朝日5丁目24番1号(0276-63-7733)

入場無料 全席自由

第1部<講演> 演題:「私の落語家修業」

第2部<落語> 「当日のお楽しみに・・・」

【お願い】

- ・不要なタオル・石鹸等ございましたら 受付迄お持ちください。社会福祉施設へ寄付させていただきます。
- ・福祉募金へのご協力もお願いいたします。
- ・駐車場が不足しています。乗り合いでの来場にご協力をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

スバル地域交流会事務局 TEL:0276-26-2011 HP:www.chiiki-kouryuukai.com

立川 談四楼 プロフィール



本 名 高田 正一（たかだ まさかず）

生年月日 昭和26年6月生まれ

出身地 群馬県 邑楽町

履 歴 1970年3月 県立太田高校卒、同年立川談志入門。
1980年11月 NHK新人落語コンクール優秀賞受賞。
1983年11月 立川流落語会第一期真打となる。

1983年、真打昇進試験を題材にした『屈折13年』（別冊文藝春秋）で文壇デビュー。

1990年、初の小説集『シャレのち曇り』（文藝春秋）を発刊、以後、TV、ラジオの出演の他、落語会、講演会多忙の中、新聞、雑誌に連載エッセイやコラムを書き続けている。

落語会の修業の苦しさ、芸人のスピリッツを語ったエッセイ集『どうせ曲がった人生さ』（毎日新聞社刊）などの単行本を出版し、1998年長編書き下ろし小説『ファイティング寿限無』（新潮社刊）は、各方面から圧倒的な支持を得る。

落語では二つ目のときに、NHK落語コンクール優秀賞を受賞した経験を持ち、154回を数えた、東京、下北沢での独演会、出版社ホールでのポプラ寄席をはじめ、地方での数々の独演会で全国行脚を展開中。

古典本格派の実績と創作文芸落語のパイオニアとして、又、観客を舞台に上げて落語を演じて貰う“談四楼の話し方教室”や、「修行」「日本語」等に関する講演は、学校、企業、団体からの要望が高い。

1998年から専修大学の特別講師として、教壇に上がる経験を持つ。

2008年9月に発刊した小説「1回こっくり」（新潮社）は、生と死をテーマにし、最終章を飾る落語は、近親者を失った人たちから「共感した」「癒された」等の感想が広く寄せられている。

2010年は初の時代小説「長屋の富」（筑摩書房）「話のおもしろい人、へたな人」（PHP研究所）

2011年7月「落語家の祝い酒 やけ酒」（PHP研究所）

2012年6月《特集ムック本》 立川談四楼読本「談四楼がやってきた！～落語立川流の最終兵器～」（音楽出版社）

2013年7月新刊「ほめる力 人に認められる極意、教えます」（学研パブリッシング）